

ボランティア活動グループ。訪問記

50年以上もの長い活動を続けている  
相模原市点訳赤十字奉仕団



「コロナ禍のきびしい状況の中にあっても感染防止に注意しながら活動を続けている相模原市点訳赤十字奉仕団(略して点奉)を紹介いたします。

代表の西田紀子委員長に伺ったお話では、昭和42年に会員の名で相模原市点訳奉仕会として発足し、昭和46年改称、今に到ります。

半世紀もの長い間には、高度成長期を経てバブル崩壊、低成長期と刻々と変化する中でも続けてきたのです。

点訳活動にも時代の変化はありました。木製の点字器で一点一点打っていた時代から、タイプになり、現在はパソコン点訳が主流になりました。また現在では、各地域での蔵書管理から「サピエ図書館」での一括管理に変わり、全国オンラインで即座に情報を得る「じぶがびる」になりました。

現在の団員数は約50名。主な点訳活動としては、神奈川県ライオンセンター(目の不自由な方のための支援施設)の蔵書点訳、ウェルネスがみはらにある視覚障害者情報センターの蔵書点訳。そして相模原市の「広報さがみはら」「福祉のしおり」など行政からの委託事業の他、社会福祉協議会「みんないい人」や福



西田委員長

祉団体個人からの依頼の点訳などがあります。ほかにも、触地図(手で触ってわかる地図)の制作

中途失明者の点字指導、小中学校や地域への福祉講座の点字体験などを行っています。

蔵書点訳は、各自のライオンセンター・視覚障害者情報センターから蔵書を預かり、自宅で進めています。

点字版「広報さがみはら」については、毎月1日、15日の発行日近く「読者の皆さんへ」へよく「団員全員で当番を組み、原稿の受け取りからパソコン入力、校正、印刷、発送までを4日間程度で行っています。昨年5月で1000号に達しました。その他の活動については、触地図、ライブラリー情報(点字本の紹介)、プライベートサービス、製本、機関紙「げやま」などがあり、団員が分担して行っています。

定例会は毎週木曜日。様々な連絡事項や勉強会に当てています。点字を習得して活動してみたいと思う方は、「広報さがみはら」4月15日号に募集記事を載せていただければ幸いです。「じぶがびる」をご覧ください。

今はイベントも開けない状況ですが、団員研修会や団員交流会の日帰り旅行も年1、2回行っています。

また日赤神奈川支部の特別奉仕団として日赤行事への参加、献血手伝いなどもしています。

(杉崎、植野)



点字版「広報さがみはら」



点字プリンターで印刷中

\*相模原市点訳赤十字奉仕団  
委員長 西田紀子  
〒252-0236  
相模原市中央区富士見6-1-20  
あじさい会館内  
TEL 042-759-3963



たのを覚えていきます。

同じ頃「飲ちゃん24時間アシヒ」から寄贈されたハンディキャプター号車があり、運行事務の仲間に入れていただきました。

あじさい会館が建立され、ボランティア協会が設立されたのを機会に、事務局の手伝いを始めました。そして各ボランティアグループや障がい児者の団体などについて本主に多くのことを勉強させていただきました。

暫くして何か技術や特技がなくても出来る簡単な活動はないかと考え昭和61年に有志と使用済み切手を集め整理して、それを必要としている施設などに送る切手グループを始めました。メンバーもそれなりに集まり楽しいグループでしたが、ある施設では白紙から切手を水に濡らして剥がすように言われ四苦八苦したこともありました。

またその時期に朝日新聞のタウン誌に切手グループの活動が掲載され、他県の切手業者から換金しますと連絡があり、グループで相談の上、ハンディキャップ購入に少しでも役立てればと遠方に送るのは大変ですが方向転換しました。

ある日グループの活動を見学した知人が市内にも切手取集家の人達がいるからと紹介していただき、それからずっと長い間お世話になっていきます。

今では「コロナの関係もあり、少人数でささやかな活動ですが、32年間寄付を続けたことは、メンバー全員が誇りに思い、これからも使用済み切手とおおげさな格闘していきます。

